

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
【施策番号 27106：メタンハイドレート開発促進事業（経済産業省）】

- 1 日時：平成 22 年 10 月 1 日 : 11 : 40 ~ 12 : 00
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 2 階 第 3 特別会議室
- 3 聴取者：相澤議員、白石議員、奥村議員、青木議員
外部専門家 3 名（うち若手 1 名）
- 4 説明者：経済産業省 資源エネルギー庁 資源・燃料部 石油・天然ガス課長 平井裕秀
- 5 施策概要

日本周辺海域に相当量の賦存が期待されるメタンハイドレートを将来のエネルギー資源として利用可能にするため、世界に先駆けて商業的産出のために必要な技術整備を行う。

6 質疑応答模様

【相澤議員】

第 2 期の 2015 年における目標設定はどうなっているのか。

【経済産業省】

第 2 期の目標は、我が国周辺海域における計 2 回の産出試験を通して、海洋生産に向けた技術課題に目処をつけることである。

実現すれば世界初となる第 1 回目の海洋産出試験では、コスト面より安全面・環境面を重視しつつ海洋におけるメタンハイドレート生産の実証を行う予定であり、抽出された課題に対して、第 2 回までに解決策を立てて挑戦して解決を図る。まずは海洋での産出を技術的に可能にすることが目標である。

【相澤議員】

船上ではどこまでを処理するのか。

【経済産業省】

海底面下に存在する氷状のメタンハイドレートを減圧して分解し、パイプを通じて汲み上げたメタンガスについては、船上（フローティングの掘削リグ上）でフレアすることを考えている。

【相澤議員】

メタンハイドレートの場所の調査は終わっているのか。

【経済産業省】

日本海域を対象とした資源量評価は、第 2 期でも実施している。また、今年度

は日本海で海底面の表層にあるメタンハイドレートの試料を採取した。まだ科学調査の段階であるが、調査を進めているところ。

【相澤議員】

施策としての目標を明確にしたロードマップが必要である。

【白石議員】

パブコメではネガティブなコメントが多い。おそらく、投資額に対してリスクが高いという印象があるためである。商業的産出とはどういうことなのかをきちっと説明する必要があると思う。

【経済産業省】

商業的産出とは、コスト面でも生産技術面でも、海洋でメタンハイドレートを開発できる状態と認識している。

商業化のためには、天然ガスとのコスト比較が必要になる。すなわち、メタンハイドレートから生産されるガスの販売価格が我が国のLNG輸入価格を下回ることが、ひとつのメルクマールとなる。

本事業に対する意見には賛否両論あるので、しっかり説明を果たしながら研究開発を慎重に進めてまいりたい。

【奥村議員】

いつ、商業的産出に見合うことが可能なのか。

いつ判断するのか。平成30年にならないと、商業的技術的に見て事業化可能かの判断ができないのか。

それならば、技術整備を行ってから事業判断するということが目標であるという意味か。1000億をかけないと物になるかが分からないのかというのがパブコメの理由になっている。できるだけ早い段階での判断方法が必要である。

今後の進め方をしっかりやるべき。

【経済産業省】

商業的産出の可能性が無いことが分かれば、研究開発を中止にすることもありうる。ご指摘を踏まえ、厳しく対応したい。

また、前述した海洋産出試験についても、技術課題が数多くある。費用対効果やコスト抑制の面も鑑みて、施策の進め方に留意したい。

以上